

# 先進事例 紹介

職員一丸となり、地域住民の安全・安心を守ります。

静岡県 富士山南東消防本部

## 1 富士山南東消防本部の概要

富士山南東消防本部は、静岡県の東部に位置する三島市、裾野市、長泉町の2市1町を構成市町として、226.97km<sup>2</sup>の面積に約20万7千人の住民が生活しています。この地域は、世界文化遺産の富士山の麓に、東には箱根外輪山、西には愛鷹連山、南に駿河湾を望み、豊富な地下水にも恵まれ、美しい自然に囲まれた地域です。近年では、新東名高速道路や東駿河湾環状道路が開通し、東海道新幹線などの鉄道網と共に交通アクセスの利便性にも優れております。

平成28年4月に運用を開始した当本部は、1消防本部3消防署5分遣所体制で、247人の消防職員が、地域住民の安全・安心のため、日々精進しております。



富士山南東消防本部開所式

## 2 広域化に至る経緯

平成18年6月の消防組織法の改正による「市町村の消防の広域化に関する基本指針」を受け、静岡県では、平成20年3月に県全体を東部、中部、西部の3圏域消防本部を基本とした「静岡県消防救急広域化推進計画」が策定されました。

この計画を基に平成22年7月から消防の広域化を協議研究する「駿東伊豆地区消防救急広域化研究協議会」を設置し、協議を重ねてまいりました。平成24年5月には、三島市、裾野市及び長泉町で消防通信指令施設の共同整備、及び消防広域化を検討していくことで合意し、「三島市、裾野市及び長泉町消防広域研究協議会」を任意協議会として設置し、更に検討を深めてまいりました。平成27年4月には、法定協議会として「三島市、裾野市及び長泉町消防広域化推進協議会」に移行し、同年10月、三島市、裾野市及び長泉町消防通信指令施設の共同運用を開始するとともに、同年12月、三島市、裾野市及び長泉町広域消防運営計画を策定いたしました。平成28年1月には、「富士山南東消防組合」が発足し、同年4月、富士山南東消防本部の運用を開始いたしました。



## 3 消防広域化の効果

### (1) 災害発生時における初動体制、増援体制の強化

火災発生時の出動車両数を増加することができるようになり、初動体制の強化に繋がりました。また、広域化前の管轄区域（市町境）を越えた応援出動件数は、平成27年は年間30件でしたが、平成28年は年間327件と大幅に増加しました。

### (2) 現場到着時間の短縮

消防ポンプ車・救急車の運用効果においては、直近署所から出動するため、現場到着時間が短縮し、より迅速に対応することが可能となりました。

### (3) 予防業務の強化

予防業務の専門化、高度化を図ることで、消防設備等、予防査察、防火管理及び法令違反等の指導ができる体制となりました。

### (4) スケールメリットを生かした消防車両・資機材の整備

消防車両・資機材は、高価で維持管理にも多額の費用を要するため、単独の消防本部で運用するには財政的に大きな負担となります。そこで、広域化によるスケールメリットを生かし、計画的に整備を進めています。平成28年度は消防ポンプ車1台と救急車1台、資機材搬送車1台を更新することができました。また、はしご車は三島市のみ、化学車は裾野市のみ保有でしたが、2市1町で活用することが可能となりました。



消防指令センター



3署合同訓練（中高層火災消防訓練）



3署合同訓練（多数傷病者想定訓練）

## 4 おわりに

三島市、裾野市及び長泉町は、東海地震や富士山噴火など大規模災害が発生する可能性のある地域です。また、新東名高速道路、東名高速道路、東駿河湾環状道路、国道1号線、国道136号線、国道246号線と道路網が発達し、さらに、新幹線、JRの東海道線、御殿場線、伊豆箱根鉄道など、鉄道網も発達しているところですので、大きな事故が起こり得る地域でもあります。

そのような中、富士山南東消防本部におきましては、広域化したことによるスケールメリットを最大限に生かし、三島市、裾野市及び長泉町に住む20万人を超える住民の皆様方の生命、身体及び財産を守るために、職員一丸となり取り組んでまいります。